

【環境】2) サンル川はサクラマス資源にとって重要であり、遡上・降下に疑問があることから、ダムによらない河川整備計画とすべき。

河川改修とサンルダムや遊水地の組み合わせによる代替案を比較した上で、河川改修とサンルダムによる整備方式が総合的に有利と考えています。

図-1、図-2、図-3 に示すようにサンル川流域においてサクラマスが遡上し、産卵床が広い範囲で確認されているため、サンルダム建設にあたっては魚道を設置し、ダム地点において遡上・降下の機能を確保することにより、サクラマスの生息環境への影響を最小限とするよう取り組みます。

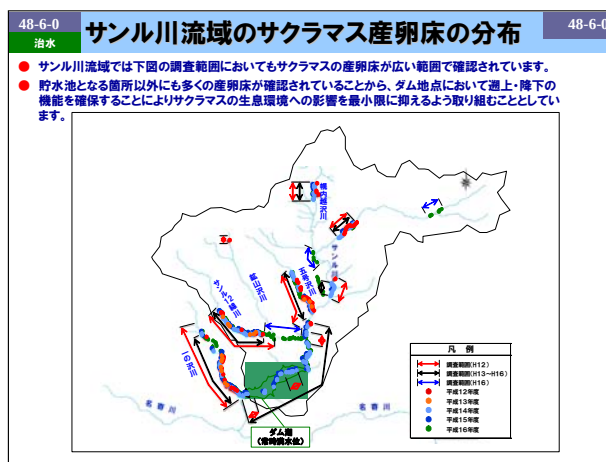


図-1

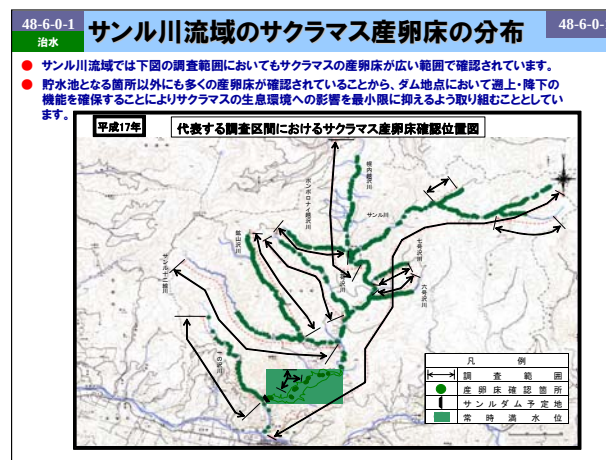


図-2

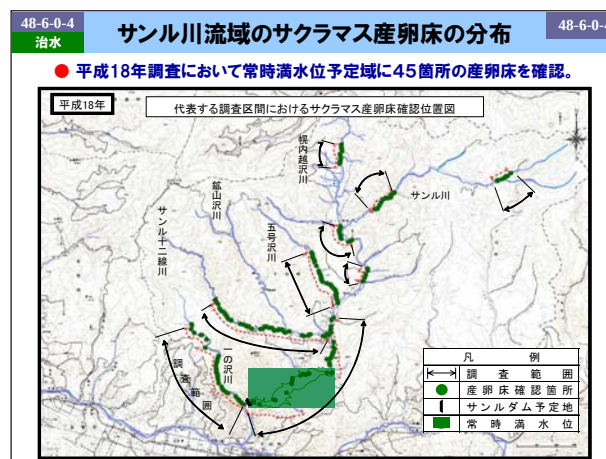


図-3

また、サクラマスの上流、降下対策にあたっては専門家の意見を聴くとともに、現状の機能を保全しながら事前の段階から必要に応じて試験を行い、その生息環境の推移を継続的にモニタリングするなどその効果を確認したうえで必要な対策を講ずることができる体制を整備をすることとしています。このため、平成 19 年 11 月に魚類等の生息環境保全に向けた川づくり等について、学識者や知見を有する専門家の意見を聴取するため、「天塩川魚類生息環境保全に関する専門家会議」を設置したところです。

現在、事前の段階からの試験の実施も含め種々の対策を検討しているところであり、本専門家会議の議論も踏まえ、必要な対策を実施します。